

風化させない震災の記憶

3.11 東日本大震災から10年

2011年3月11日に発生した東日本大震災から今年で10年を迎えました。
過去にない甚大な被害をもたらした大震災を、節目のこの年に振り返ります。



東日本を襲った巨大地震

2011年3月11日、14時46分。宮城県牡鹿半島の東南東沖130kmを震源とした東日本大震災が発生しました。地震の規模を表すマグニチュードは9.0、最大震度7。日本周辺における観測史上最大で、およそ10万km²の広大な範囲が震源域になるなど、誰も経験したことのない大地震でした。この地震により最大遡上高40mにも上る巨大な津波が発生。太平洋側の沿岸部の町は濁流に飲み込まれ、津波の直撃を受けた福島第一原子力発電所における原発事故は現在も解決できないまま、近隣地区での居住制限や汚染水の処理問題などの大きな問題を残しています。

地震とそれに伴う津波・火災の被害を受けた町では、ほとんどの建物・家屋が破壊され、交通網や水道・電気といったライフラインが遮断。多くの日常が奪われ、たくさんの人々が避難所や仮設住宅に住むことを余儀なくされました。建物倒壊は約12万戸が全壊、死者数は19,729人を数え、今もなお2,559人の方が行方不明と、未曾有の災害であったことを物語っています。

地震の影響は東北地方のみにとどまらず、首都圏都市部でも震度5強を観測。地震直後は電車の運行が止まり帰宅困難者が多数発生。建物の倒壊や液化化現象などインフラに甚大な被害がありました。さらに国内の原発の運転停止により電力供給危機に陥り計画停電の実施、多くの活動やイベントが延期・自粛されるなど日本の社会活動全般にも多大な影響を及ぼしました。また、教育の現場でも被災した学生の全国への転入や休学措置、大学入試での措置や学生生活支援など、特別な対応がとられました。

※数字は復興庁『東日本大震災からの復興の状況と取組』2020年9月版より



写真:AFP/アフロ



写真:読売新聞/アフロ

震災後、本学の取り組み

震災発生時、本学は春季休暇中でしたがキャンパスには多くの人がありました。交通機関の停止により帰宅が困難となった学生・教職員約850名が学内でその夜を明かしました。翌12日より学生の安否確認を開始。帰省先で被災した学生もおり、全員の無事が確認されるまでに約1か月を要しました。その後も相次ぐ余震や社会情勢から、3月23日の卒業式は中止に。復興に向け、少しずつ日常を取り戻すことを目指し、4月6日に入学式を挙行、新学期をスタートさせることができました。

3月30日には教育・研究機関として蓄えた「知」による貢献を行うべく、東日本大震災復興問題対策チームを結成。各分野の専門教員が12のグループであらゆる角度から支援に携わる活動を開始しました。また、さまざまな情報が錯綜し漠然と不安を感じる社会に対し、正しい認知と理解の一助となる情報発信にも注力。エネルギー問題や放射線に関する基礎知識、防災と安全対策などをテーマに緊急シンポジウムを開催しました。原発避難や自宅損壊などの被害を受けた学生には納付金の減免、支払期間の延長など直接的な支援を行うほか、復興の力になりたいと願う学生たちに向け、学生ボランティアを派遣する「東北応援プロジェクト」をスタート。ボランティア期間中は授業を公欠扱いとし、ボランティア助成金制度を創設するなどのサポートを続け、2019年度*までにのべ2,248名の学生を派遣しています。

東日本大震災でのこれらの経験から、本学では災害発生時の迅速な支援活動を行う体制を構築。2016年の熊本地震や2018年の7月集中豪雨などでの復興支援にいかされています。

※2020年度は新型コロナウイルスの影響で派遣を休止



「震災、10年～next decade for sustainable society～」

シンポジウムを中心に、
震災を振り返る企画を実施

2021年2月20日には学生たちが「東日本大震災～復興支援10年の今～」と題したシンポジウムを開催しました。第1部では山田町に自習室「ゾンタハウス」を設立し、2011年より地域の子どもたちへの支援活動を続けてきた社会学部社会福祉学科・森田ゼミの現役学生と卒業生、山田町の人々をオンラインでつなぎ、映像とともにそれぞれの立場で想いを語りました。第2部では本学の学生と甚大な被害を受けた宮城県南三陸町出身の若者たちが、震災10年が経過したこれからの復興支援や防災についてディスカッションを行いました。このシンポジウムのほかにも、ボランティア支援室による震災から10年を振り返る企画が開催されました。

「震災、10年～next decade for sustainable society～」企画一覧

いずれもオンラインにて開催

- 「東日本大震災より10年を振り返る」シンポジウム
- 本学学生と現地の若者による南三陸町での支援活動の10年を振り返る
- ボランティアカフェー東北編ー
「あなたとわたしの3.11～これまでとこれから～」
- 「避難所運営ゲーム」のオンライン体験ワークショップ

次のページでは、今回のシンポジウムを含め本学の震災支援の先頭に立ってきた社会貢献センター長を務める社会学部の森田明美教授に、震災後の活動やそこから見えたもの、私たちにできることなどをお話いただきました。